

## マヤサンコブヤハズカミキリの越冬温度

江崎 功二郎

〒920-21 石川郡鶴来町三宮ホー 石川県林業試験場

Hibernation of *Mesochthistatus furciferus* (BATES) (Coleoptera, Cerambycidae)

Kôjirô ESAKI

Ishikawa-ken Forest Experiment Station,  
Ho1, Sannomiya, Turugi, Ishikawa-gun, Ishikawa 920-21, Japan

**Abstract** Temperature in the litter layer under the snow is always more than 0°C at the hibernating site of *Mesochthistatus furciferus* (BATES).

### 1. 緒 言

マヤサンコブヤハズカミキリ *Mesochthistatus furciferus* (BATES) は、近畿、中部および北陸地方の低地から高地まで分布する。本種は一年を通して見られ、とくに秋季には新鮮な個体がカエデやアザミ類などの枯れ葉を摂食しているのが観察され、春季には歩行している個体を、夏季には倒木上にいる個体を見ることが多い。冬季は、同属のフジコブヤハズカミキリ *M. fujisanus* HAYASHI のように、落葉層下で越冬する（平井，1980）ことが予測されるが、本種については明らかにされていない。

本報では、本種の落葉層中での越冬とそれに関連する温度および積雪高について報告する。

報告に際し、越冬環境調査にご協力していただいた石川県林業試験場の矢田 豊技師に厚くお礼申しあげる。

### 2. 材料および方法

石川県石川郡鶴来町樹木公園展示スギ林内（約50年生）に、まったく底を欠いたプラスチック容器（50×30×30 cm）を5 cm程度地面に埋め込み、ヤマブドウの葉のついたツルを容器内の落葉層の半分が十分におおわれるように詰めて入れた。1993年11月18日に、この容器に、河内村内尾で9月下旬から10月上旬に採集した、マヤサンコブヤハズカミキリ20個体を入れ、個体が容器外へ移動しないように上部に網の蓋を取り付けた。12月21日まではヤマブドウを摂食する個体や歩行する個体が見られたが、22日には積雪が観測され、表面上個体が確認できなくなったので、上部の蓋を取り外して容器内に積雪があるようにした。

積雪高は容器の近くに高さが確認できるポールを垂直に固定して、原則として毎日、午前8:00から9:00までの間に測定した。温度は、容器内の落葉層中と積雪高の測定に用いたポールの地上高200 cmに、温度センサーを設置して測定した。

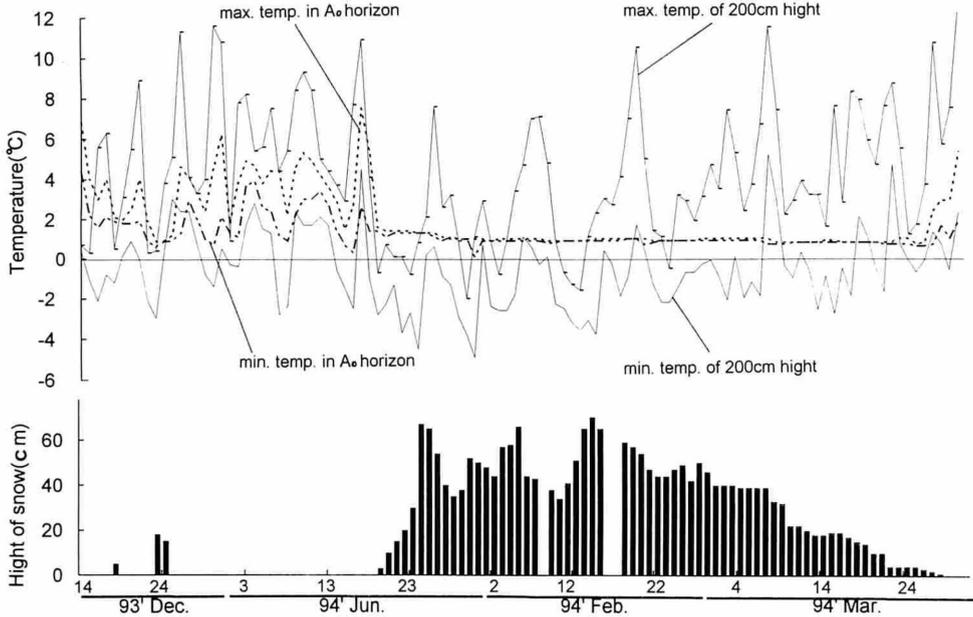


Fig. 1. Temperature and height of snow at the hibernating site of *Mesechthistatus furciferus* (BATES). (14/Dec. 1993~31/Mar. 1994.)

### 3. 結 果

地表面に雪が見られなくなった4月1日の観察で、ヤマブドウの枯れ葉内にくるまっている個体を5個体確認した。その後の4日には6個体が不活発ではあるが活動しているのが観察されたので、ふたたび上部に蓋を取り付けその後の経過を調査したが、蓋の網に一部すき間があることが解り観察を中止した。1993年12月14日から1994年3月31日までの積雪高（1994年2月8, 16, 17日に欠測値が生じた）、および落葉層内と地上高200cmの1日の最低最高温度を図1に示した。図1より、積雪があるときは積雪高に関係なく落葉層内の最低最高温度は、ほぼ一致して0°C以上で安定することが示された。

### 4. 考 察

江崎（1992）は、コブヤハズカミキリ *M. binodosus* (WATERHOUSE) の越冬観察で、落葉層内での越冬場所は環境条件によりかなり限定されると考察している。図1より、積雪下の落葉層中の温度はかなり安定していることが明らかなので、本種が限定した越冬場所を選択するとすれば、温度条件外の要因が関わっていることが示唆される。

### 5. 引 用 文 献

- 江崎功二郎, 1992. コブヤハズカミキリの越冬調査と飼育観察, げんせい, (59・60): 3-10.  
平井 勇, 1980. フジコブヤハズカミキリの越冬について, 月刊むし, (109): 12-15.